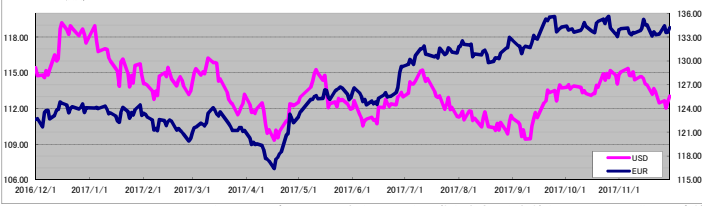
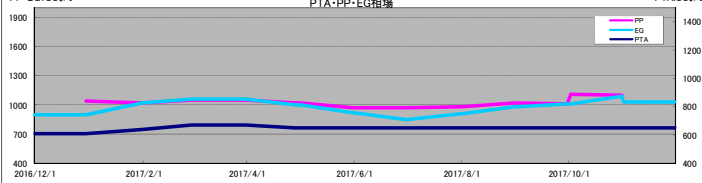


為替公示TTSLレート推移表



●11月の動き ●113.64円/\$で11月をスタート。月初、米雇用統計、その他米指標も良好な数値を示し、6日には期間中高値の114.74円/\$を付け、その後は北朝鮮問題、米法人税減税の先行報道を受けやみつき米相場を米ドル買いで推移した。月中盤となり、石油需要見通しの下方修正→原油価格が急落/与党内で足踏みが憚りない米大統領選でのロシア介入等の米政策不安定感等から111円/\$台を付け、月終盤へ。その後は、好調な米指標とFOMC議事録でのトランプ内容からの綱引き状態となるもやや米ドル売りのまま最終週へ。27日には北朝鮮ミサイル発射準備報道を受け期間中安値の110.83円/\$を付けたが、米FRB議長議長長の米経済好調とのタカ利発言や裏打ちする好調な米指標等から、米ドルが買い戻され、結局@112.53\$/11月の取引を終える。

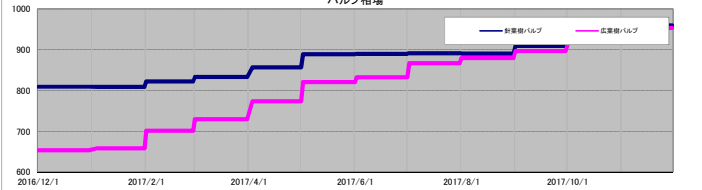
PP-EG-US\$/t PTA-PP-EG相場



◇インドラテ、ポルトガルのPTA70万設備を買収 欧州ラテにたいのインドラベンチャー(IVL)は、ポルトガルのArlantからPTA高純度プレラフル年産70万トン設備を買収する。同設備はポルトガルのSines Industrial Complexに立地。インベスタ技術を導入して、立ち上げは2012年と比較的新しい。買収は年内に完了する見込み。欧州のPTA市場における地位を強化すると同時に、グループ内で輸入に依存しているPTAを自製置き換えることで、競争力を強化する。IVLは欧州で270万トン、スペインに32万5000トンのPTA設備を有しており、今回の買収で総能力172万5000トンに拡大。英BPの130万トンを除いて、欧州ラテのPTA生産能力を有することになる。

【Jchem-News/参照】

パルプ相場



◆脱植絨に挑む日本製紙 植物由来の新素材でクルマを造る 紙の需要減少が続いていること、日本製紙が「総合バイオマス企業」を旗印に新規事業の開発を進め、その柱に据えているのは、植物由来の新素材であるセルロースナノファイバー(CNF)だ。環境に優しい、軽い、強度が高いといった特徴を生かして自動車部材などでの採用が期待されるが、製造コストの削減が大きな課題。同社はCNFの生産を相次いで開始し、勝負し出している。

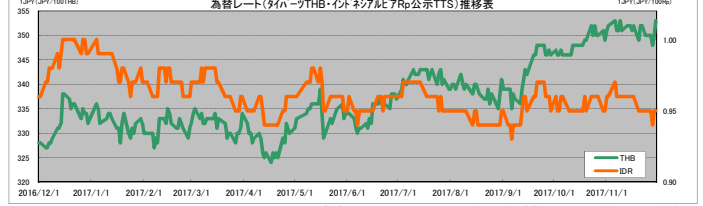
＜不織布ピピックス＞

合繊系5社の2017年度設備投資、期初計画比0.9%増の4,233億円 合繊系5社(旭化成、クラレ、帝人、東洋紡、東レ)の2017年度設備投資予算額は、4-9月までの中間期を終えて合計4,233億円(前年度実績4,004億円)となり、期初計画合計比0.9%増増加した。計画超過修正したのはクラレ1社で38億円の増額。旭化成、帝人、東洋紡、東レの4社は前期計画を据え置いた。クラレは米子全社での水溶性非繊維(PTA)増産(2018年上期稼働予定)を決定したことなどから期初予想を上方向修正した。なお、東レは2017年度より有形・無形固定資産のれんを除く合計値を発表している。

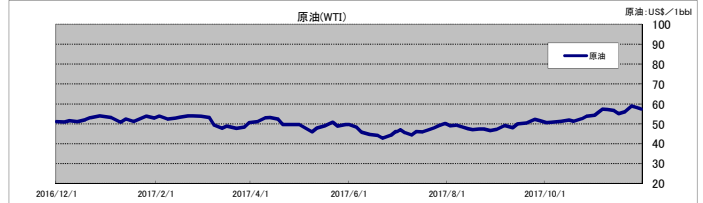
＜海外トピックス＞

中国、日本車稼働 3-5位 ホンダなど2桁増の勢い 政治影響 現代自が失速 世界最大の新興市場の中国で日本車が躍進している。市場全体の成長は4台と伸び悩んでいるが、ホンダや日産自動車、トヨタ自動車の日系大手3社は10月も好成績を挙げ見せ、今年も中国市場で初の日産が販売上位3-5位を占めるのは確実な情勢だ。政治的要因で韓国・現代自動車も好成績を挙げ、中国市場の競争が激化している。現代自の失速は、韓国市場の不振が原因と見られている。現代自の失速は、韓国市場の不振が原因と見られている。

為替レート(タイバーツTHB/インドネシアルピアIDR公示TTSL)推移表



●タイバーツ相場 @33.24THB/\$で11月をスタート。1日に期間中安値@33.25THB/\$を付けた後、好調な経済指標/米雇用統計/米政策金利発表(据え置き)等を経るも材料とならず、月前半33.10THB/\$を起し、米中長期的な狭い範囲水準に落ち着く。米中のGDPで好調な予測が示された中、米大統領選/FRB議長長のタカ利発言等から徐々にバーツが買われ、投資資金流入もあり、29日には@32.49THB/\$の期間中高値を付けた。この水準では、中盤のバーツ売り入りも発表される等押し戻し、@32.65THB/\$で11月を終える。12月は米利上げ動向が最大のテーマ。既に12月利上げは織り込まれ、米中の利上げペースに懸念が移っている。基本的には好調な経済指標は全面的に良く、やや海外からの資金流入継続懸念がある中、バーツの大幅な売りを米中に押し戻し、北朝鮮等の地政学問題も残るが、解決局面も来たと見られ、ややバーツ買い継続。相場は@32.15~33.15THB/\$と予想。



世界の原油の半分以上を生産する石油輸出国機構(OPEC)加盟国がウーバーの一環に全する総会が11月30日に開かれた。サウジアラビアとロシアが石油輸出の歴史を長く持つ両国として、減産の決定者として注目を集めている。減産の決定は9月末であると理由に、決定を急ぐ必要性について絡み合っているとされる。OPECのバルネコ事務局長は原則として減産継続に反対する者はいないと考えており、延長期間も最長で3カ月、最長9カ月となる可能性がある。

天然ガス相場 75.00 THB/Kg 天然ガス相場は前期同様に減少傾向が続いている。天然ガス相場は前期同様に減少傾向が続いている。天然ガス相場は前期同様に減少傾向が続いている。

＜設備・家電トピックス＞ ソニー20年ぶり過去最高 電機大手7社の9月中旬、6社が最終増益 経営再建中の東芝を除く電機大手7社の2017年9月中旬決算発表が31日、出そろった。最終増益はソニーや日立製作所など6社が増益となり、東芝が赤字に転じた。ソニーは前期比で増益が拡大し、日立製作所も増益が拡大した。東芝は前期比で減益に転じた。

＜金融・ビジネストピックス＞ ドル相場と日経平均株価の相関性 解散総選挙が一斉に報じられ9月18日を境に、日経平均株価の上昇ペースが一気に速まった。週明けの11月21日まで約11%の上昇。衆議院議員選挙で安倍首相続任が決まったことに加え、経済指標の好転や、企業収益の改善が株価を押し上げた。また、興味深いのは、これだけの株価上昇にもかかわらず、この間ドル相場の上昇ペースが約1%程度の上昇率にとどまっていた。株価の上昇について行なってきた。この間ドル相場の上昇ペースが約1%程度の上昇率にとどまっていた。

●本誌のデータは各種公表数字を基に作成しております。 ●本誌の記事 内容に關しては、誤り等存する場合もございますので、あくまで参考の資料としてご利用頂きますと大変有難く存じます。